※※

今日の力

※※

2020 年 5 月 18 日～5 月 24 日

翻訳　伊 藤 若 菜

編集　相 川 忠 義

この冊子の聖句は，新改訳聖書第三版を使用しています。

御 茶 の 水 キ リ ス ト の 教 会

5月18日（月）

イ エ ス 様 の よ う に

聖書朗読　ヨハネ　１３：１～５

人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」

マルコ　１０：４５

このような場面を思い浮かべて下さい。万物の創造主である方が、12 人の弟子たちの汚れた足を洗っています。自分たちの足を洗って下さった方が、どのような方なのかを知った弟子たちの気持ちを想像して下さい。なぜ、イエス様は弟子たちの足を洗われたのでしょうか？　どうしたら影響力のあるリーダーになれるか、を実践して見せるためだったのでしょうか？　主イエスのメッセージはこうです。「いいですか、もし優れた指導者になりたければ、徹底的に遜りなさい。あなたが導く人々と同じ視線に立つのです。そうしなければ、彼らが真に必要としていることは分かりません。それが『仕えることによるリーダーシップ』と呼ばれるものです。これが指導者に真に必要なことです。」主が洗足の場面で示したかったことは、そのようなことなのです。

イエス様がお示しになりたかったことは、「どのように人々を導いたら良いか」という方法ではなく、むしろ「指導者の心構え」だと言えます。「優れた指導者になるためには、まず他者に仕える人にならなければなりません」とイエス様はお示しになりました。真に「指導者である」ということに欠かせないのは、指導の技術ではなく、主イエスが持っておられたような遜りの心構えだからです。

通常私たちは、ある人が何らかの点で極めて秀でている点があると、その人を「偉大な人」だと考えがちです。例えば、極めて頭が良いとか、体力がある、人気がある、お金持ちである人、或いは非常に愉快な人を「偉大な人」と考える傾向があります。（もちろん、そうした賜物自体が悪いことでは決してありませんが）しかし、そうした自分が持っている賜物を自分の価値の目安にしてしまうならば、私たちには常に不安な気持ちが付きまとうことでしょう。それらの賜物は、失われることがあるからです。しかし、自分の賜物を誇示するのではなく、イエス様のように自分を低くし他者に仕える姿勢を求める生き方には、不安ではなく神の平安が与えられます。なぜなら、遜ることは神様が評価して下さる生き方であり、他者との比較ではないからです。そして、私たちは誰でも、「遜る生き方」に招かれているのです。

讃美歌　121

祈 り　お父様、イエス様の素晴らしさを理解出来るようお導き下さい。ただ奉仕するだけでなく、心から仕える人となれますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

デイヴィッド・ラングフォード
テキサス州ラボック

5月19日(火)

謙　虚　で　あ　る　こ　と

聖書朗読　　ヨハネ　１３：２〜６

それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまとっておられる手ぬぐいで、ふき始めた。　ヨハネ　１３：５

私の知っている人の中で、最も謙虚なのは私の兄です。彼はとても成功したコーチであり、たくさんのチームを成功へと導きました。また、彼自身も優れた業績を残しています。それにも関わらず、その結果や地位を振りかざすことなく謙虚でいる兄を誇りに思います！　彼が授与されたトロフィーの数々を目にすることがなければ、誰も彼がそのような人だと気が付かないでしょう。試合後のインタビューでも、選手やコーチを賞賛して、自分の手柄にすることはありません。

聖書には、何人かの謙虚なヒーローたちが描かれています。ヨセフ、モーセ、ダニエル、といった人物たちです。そして彼らの謙虚さは、イエス様の謙虚さを指し示しているとも言えます。神の御一人子であるイエス様は、ご自身が父なる神の許から遣わされ、再び父なる神の右の座に着かれることをご存知でした。父なる神への全き信頼は、イエス様が謙虚に歩まれる上で重要だったと思います。

同様に私たちも、「自分が何者か」ということを思い起こすことが重要です。すなわち、私たちは、神様によって（地の塩世の光として）この世界で遣わされており、最終的には御国へ迎え入れて頂くことになっているのだ、ということを信仰によって思い起こすことが大切です。

なお、聖書には、権力を振りかざした残念な人々についても触れられています。サムソン、サウル王、ヘロデなどです。彼らは高慢でした（時に、神によって砕かれる経験もしましたが）。聖書は言います。「なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです（ルカ 14:11）。私たちは、必ずしもスポーツコーチや聖書に描かれているようなヒーローたちと同じ立場にいる訳ではないと思います。しかし、私たちが神様によってこの世界で遣わされているということを思い起こすとき、私たちはイエス様の謙虚さをもって、神と人とにお仕えすることが出来るのです。

讃美歌　333
祈　り　神様、謙虚にあなたに仕える者となれるようお導き下さい。
　　イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マーク・ゴメス
テキサス州ベッドフォード

5月20日（水）

聖　霊　に　よ　る　導　き

聖書朗読　　ヨハネ　１４：１５〜２１

ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。　　Ⅰコリント　１２：３

私たち夫婦は、娘が教師になる決断を下したことに対して、とても誇りに思っています。彼女は、沢山の低学年の生徒たちに影響を与えました。私たちは何度も、娘が担当した生徒やその両親たちから、いかに娘のクラスでの経験が彼らに影響を与えたかを聞いてきました。良い教師に出会うことは、私たちの人生においてとても大切なことです。

もちろん他にも、強い印象を残す教師は居ます。聖霊も私たちにとっては「教師」と呼べる存在だと思います。私たちが聖句を学び、祈る際にそのように感じるのではないでしょうか。また、聖句は私たちに人生においてどの様へ歩き、行動すべきかを教えています。私たちがいかに、無力な存在であるかも教えてくれます。また、イエス様について思い起こさせてくれます。どのようにでしょうか？　私たちの記憶を新たにさせてくれるのです。私たちの心を効果的に開き、聖霊は「すべてのことを教え」ます。注意を払い、神様に感謝しましょう！

讃美歌　500
祈　り　お父様、私たちは御言葉に頼ります。全ては御手にあることを理解しています。いつも慈愛と恩恵を与えて下さることに感謝致します。
　　イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

W.スコット・ウッドリー
テネシー州キングストン

5月21日（木）

イ　エ　ス　様　の　喜　び

聖書朗読　　ヨハネ　１７：６〜１９

さらに、ネヘミヤは彼らに言った。「行って、上等な肉を食べ、甘いぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった者にはごちそうを贈ってやりなさい。きょうは、私たち主のために聖別された日である。悲しんではならない。あなたがたの力を主が喜ばれるからだ。」・・・こうして、民はみな、行き、食べたり飲んだり、ごちそうを贈ったりして、大いに喜んだ。これは、彼らが教えられたことを理解したからである。

ネヘミヤ　８：１０、１２

本日の聖書朗読箇所13節で「わたしは今みもとにまいります、わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです」とイエス様は祈られました。この祈りの前にイエス様は、どのような発言をされましたか？　イエス様は父なる神様に、イエス様を信じる人々を守って下さるよう、また信者たちが一体となるよう、祈られました。パウロはピリピ2:1〜4で似たようなことを記しています。それは、私たちクリスチャンに対して、キリストにあって一致を求めるものです。

イエス様が喜ばれるのは、弟子たちがイエス様の教えたこと全てを信じることだけではありません。確かに、イエス様と父なる神様とに信頼を置くよう、主イエスは弟子たちにお教えになりました。しかし、さらに一歩進んで、私たちの神様に対する信頼が、私たち同志の交わりを深めていく時、主はそのことをお喜びになるのです。イエス様は、（本日の聖書箇所の場面の後）間もなく裁判にかけられ、十字架へと進んで行かれます。十字架が差し迫る限られた時間の中で、イエス様は、主にある信仰が弟子たちの交わりを深めることについて、弟子たちにぜひ知ってもらいたいと思われたのです。私たちも、主にある信仰を共に分かち合いながら、私たちの交わりをより豊かな交わりへと深めて頂きましょう。

讃美歌　352

祈　り　親愛なる神様、つい自己中心的になり、他のクリスチャンたちのことを考えられない時があることをお赦し下さい。私たちの目をあなたに向け、クリスチャンとして一致して従うことが出来るようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジーナD・ゴードン
サウスカロライナ州マレルインレット

5月22日（金）

栄　光　を　受　け　る

聖書朗読　　ヨハネ　１７：１〜２６

イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現して下さい。

ヨハネ　１７：１

イエス様は栄光を受けるように祈られました。この祈りは、個人的な欲のための祈りではありませんでした。イエス様は、成功、名誉、または富を求めていた訳ではないからです。イエス様の心は、神様と一体であり、お祈りは神様の栄光のためでした。

あなたは、自分自身の栄光のために祈ったことはありますか？　例えば、仕事での昇進、コンテストで勝てるように、または自分が努力していることについて人々からの称賛があるように祈ったことがあるかもしれません。それらは栄光を受けることのひとつの形と言えるでしょう。私たちは自尊心を高めたいと思いますし、他の人からの賞賛を望みがちです。

イエス様も、栄光を受けるよう祈られました。しかしそれは、頂いた栄光を神様へとお返しすることが最大の目的でした。ともすると私たちは、昇進したり、社会的地位を得たり、何らかの成功を収めることで自分の栄光をまず獲得し、その栄光を神様にお返しすればよい、と考えるかもしれません。しかし、そのような考え方は、気を付けないと「自分自身の栄光」が最大の目的になってしまい、「神様に栄光をお返しすること」がいわば付録のようになってしまいます。イエス様の場合はどうだったでしょうか。イエス様は、間もなく人々から裏切られ、拷問を受け、十字架に掛けられることをご存知の上で、祈られました。つまり、ご自身が苦難を受けられることを通して、死に対する勝利（復活）というご栄光をお受けになることを祈られたのです。

私たちの祈りが、どこか自己中心的な祈りになっていないか、点検してみる必要があるかもしれません。自分にとって心地よいことではなく苦難を通して、神様からの栄光頂く場合もあります。私たちにとって大切なことは、その神様に、自分自身をおゆだねし、明け渡していくことではないでしょうか。

讃美歌　338

祈　り　私たちの救い主である神様、私自身の望みではなく、あなたを証するために、私の人生を通してあなたのご栄光を現して下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

シャーロット・メイズ
テキサス州ラボック

5月23日（土）

傷　跡

聖書朗読　　ヨハネ　２０：２４〜２８

モーセは民に言った。「奴隷の家であるエジプトから出て来たこの日を覚えていなさい。主が力強い御手で、あなたがたをそこから連れ出されたからである。種を入れたパンを食べてはならない。　出エジプト　１３：３

過去の傷を忘れたいのに、それが出来ないように感じられることはありますか？

イエス様が復活された時、神様はイエス様の御体の各器官がきちんと機能するよう、元の状態に戻されたと思われます。そうでなければ、御体を伴った復活とは言えなかったでしょう。しかしなぜ、手の杭を打たれた跡や、刺し傷は痛々しい傷痕として残ったのでしょうか？　トマスは、復活されたイエス様に出会う前には、「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言っていました（25節）。しかし、トマスがイエス様と再会し、手の傷跡を見ると「私の主。私の神」と告白できました（28節）。

主の御体の傷跡がどうして残ったままになっているのか、その理由について聖書は、はっきりとは述べていません。しかし、次のように考えてみることは出来ないでしょうか。つまり、私たちにも何らかの過去の（心の）傷があり、その傷を勇気をもって誰かに見せることが出来るかもしれない――そうする時、傷を見た人は、あなたが過去の大きな試練から神様の力によって救われたという恵みを知るのではないでしょうか。

私たちの内にある心の傷は、誰かを恨み続けるためにあるのではありません。そうではなく、困難から私たちを救って下さった神を覚えるためにあるのです。そして、その救いの体験は、神様の素晴らしさを証することになるのです。

讃美歌　　II編167

祈　り　　親愛なるお父様、一人子であるイエス様により、希望を与えて下さったことに感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ナンシー・ベイカー
テキサス州アビリン

5月24日（日）

疑　っ　て　し　ま　う　心

聖書朗読　　ヨハネ　２０：２５〜３１

するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助け下さい。」　マルコ　９：２３〜２４

私は、よく冗談を言い合う家庭で育ちました。ですから私は、小さい頃から、何か驚くべき様なことを言われると、「何か冗談を言っているのではないか」と考え、真に受けない癖がありました。例えば、「見て、この石に金が入っているよ」などと言われて「そうだね」と言って、まず聞き流すのが普通でした。こんな私ですから、ヨハネ20章のトマスの心境はとてもよく理解出来ました。

イエス様は何度も弟子たちに、ご自身の身に何が起こるか説明しておられましたが、弟子たちはそれについてきちんと理解できずにいました。やがて彼らは、復活されたイエス様と出会います。その際、主イエスは、とても優しくトマスを扱って下さいました。すなわち、トマスが信じることが出来るよう、トマスが要求したとも言える証拠（主の傷跡）を示して下さったのです。そして、トマスが傷跡を確かに確認したということは聖書に記録され、後の時代の人々も、主は確かに復活なさったということを知ることが出来ます。もし、トマスと復活の主との出会いについて聖書に記されていなかったなら、私たちは「傷跡のあるイエス様を見た人が誰もいないのなら、私は信じない」言ったかもしれません。そのような私たちのために、トマスが体験した出来事について、聖書はきちんと記録を残しているのかもしれません。何と感謝なことなのでしょう。

トマスに対して主がして下さったことをはじめ、多くの人々が信じることが出来るように、イエス様がして下さった配慮は本当に愛にあふれていると思います。私も、イエス様のように愛に満ちた人となりたいと願わされます。もちろん、イエス様と比べたら私は霊的に大変未熟ですが、聖書を読む度に、私は神様の愛に触れ、心に感謝の思いが与えられます。そして、私も「信じます。不信仰な私をお助け下さい」と神様に祈っています。

讃美歌　　243

祈　り　　天におられるお父様、私は未熟で疑ってしまうことがあります。そんな私たちにも親切にして下さり、あなた御自身を私たちに現して下さり、感謝いたします。イエス様を通して、父なる神様を知ることが出来ることを、感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

コニー・パックストン・エドワーズ
オクラホマ州タレクゥア